

手塚治虫作品集その12——『人間ども集まれ!』——

大人向けにナンセンスに手塚治虫が挑んだ痛快SF巨編『人間ども集まれ!』完全版「実業之日本社二〇〇八年二月二十八日刊」を考察する。この本には、単行本未収録だった幻の結末一七〇頁を同時復刻掲載している。そして、この書の冒頭に当たって、夢枕獏『人間ども集まれ!』についてという開題序文があり、その書き出しに、

『人間ども集まれ!』は、幾つかの点で、手塚マンガファンには異質であるかもしれない。：大人向けの週刊マンガ雑誌『週刊漫画サンデー』に、本作品を連載されたことと無関係ではない。講談社版の本書の“あとがき”には、

「なぜこういう画風でこれらの作品をかいたか、という点については、たしかに漫画集団の人たちの画風の影響をうけていることは事実ですけれども、なによりも、それまでのぼくの漫画の画風に限界を感じていたからです。子どもむけの、あかぬけしない、ごちゃごちゃしたペンタッチから、ぬけだしたいとも思っていたからです」

と、：最終的に、その試みは、『陽だまりの樹』や『アドルフに告ぐ』などに結実してゆくことになるのだが、本書もまた、手塚治虫がやろうとした脱出の試みのひとつである。異質なことのもうひとつは性である。：物語の中心に“無性人間”という男でもない女でもない“性”をすえているからであり、この点についても、何か常とは違う異質感が本作品の底に流れているのを感じるのである。手塚治虫は、雑誌発表時と単行本にした時とは、作品が変化する有名な作家

であった。：作品よっては、雑誌掲載時と単行本とはラストがまるで違って、ハッピーエンドが、アン・ハッピーエンドになっているケースだってあるのである。本書もそういうケースである。雑誌掲載時には、無性人間と人間とが一緒に生きてゆくことになるという、まことにハッピーなエンドであったのが、単行本のおりに書きなおされて、読者はラストでつき放されることになる。無性人間と人間とは、あい入れない終わり方をする。：ぼくはハッピーエンドの方が好きだ。しかしこのようなふたつのバージョンがあるにしろ、この物語のテーマそのものはゆるいでいい。無性人間というフィクションを創出することによって、人間の幸福とは何かという命題を、手塚治虫は本書で問いかけているのである。：手塚治虫は、常に新しい。

更に、第一部 人間ども集まれ!第一章クランプ博士の生体実験 またいかなる理由で天下太平が兵役を捨てて精子を提供したか第十三章オガサワラ四月一日事件。第二部 人間ども集まれ!「雑誌連載版」。第三部 群論『人間ども集まれ!』という構成で、この第三部には、大林宣彦・中島梓・竹宮恵子・横田順彌・石上三登志・夏目房之介・山本貴嗣・米沢嘉博・村上知彦・みなもと太郎・中村桂子・野口文雄・遠山泰彦・編集部といった著名作家・評論家諸氏の此作品に対するそれぞれの立場での見解が掲載されているという本書を単なる大衆大人向け娯楽の域でとらえるのではなく、嘗てないマンガ本を通して作家である手塚治虫という人のあり方を見据えていることに気付くのである。このうち、まわし帯紙に記載された解説一部を紹介すると、

非常に手塚治虫らしい、というよりむしろ、もしかして「もつとも手塚治虫らしい」作品のひとつではないか——中島梓

とある。これだけでは納得がいかないであろうから、その書き出し部分と肝要部だけを大雑把に抜粋

しておくことにする。

●大林宣彦：結果としての手塚マンガなど、一編も無い。「永遠の未完成、これが完成なり」と宮澤賢治が言うように、手塚マンガもまた無限に変身し、増殖し、突然変異の奇蹟を俟ちながら作品としての永遠の生命力を蓄えていった。：作家は人生の持ち時間いっぱい完結する。それに対して、作家が生きた意味としての、作品の生命は？手塚マンガはこの命題を乗せて、広大な宇宙を彷徨、疾走するロケットだった。：ぼくなどあの黒澤明監督の「羅生門」のラストシーンエンスを思い浮かべる。：。

●中島梓：「人間ども集まれ！」は手塚治虫としては少々異色、というか、「雑巾と宝石」などの多少アダルト系列の作品に入ります。：私が思ってきたもののなかに、「クロス・ジェンダー」「トランス・ジェンダー」の問題がありました。：「やけっぱちのマリア」「リボンの騎士」「双子の騎士」「MW（ムウ）」などにその手塚治虫のテーマが顕著にあらわれているように思います。：手塚治虫が描きたかったものは、「ジェンダーを切り口とした差別の構造」だと思っています。「人間ども集まれ！」は、人間どもの「天下太平」への「未来」からの反逆と執着の物語なのです。

●竹宮恵子：未来（みき） 肩巾に比して手足が長い。首も長くてノドボトケはない。上唇がうすい。目はネコのように。手指が細く形が良い。骨格は大きいけれど、コウモリ傘たたんだような細長さ……。作品としては好きだけど、クリアでシンプルな動物のような未来の愛情が好き♡

●横田順彌：手塚治虫さんが亡くなられて、もう十年が過ぎた。同じ「日本SF作家クラブ」に所属していたとはいえ、手塚さんはぼくにとって神様だった。：手塚さんが、こんな細部までと思うほど、機会あるごとに作品を手直しする人であったことは有名だ。『人間ども集まれ！』も、その例にもれない。理由はご自身が書いておられるが、はたして文字どおりだったのだろうか。

これだけは、手塚さん以外に真意を語れない。

●石上三登志：手塚治虫の偉大な軌跡のなかで、ともすれば過小評価されがちなのが、いわゆる大人漫画での成果、あるいは大人漫画との格闘史だろう。：『第三帝国の崩壊』『昆虫少女の放浪記』『あんでな一家』（朝日新聞日曜版連載）『白いくびの子がも』（主婦と生活昭和三十一年）。『金のうろこ』（同年）。『おかあさんの足』（昭和三十三年）。『雑巾と宝石』（小説サロン）。『ひょうたん駒子』（平凡）。『電子夫人』（くらしの泉）。『週間探偵登場』（別冊週刊漫画TIMES）。『われ泣きぬれて島と』（昭和四十一年）。『やぶれかぶれ』『品川心中』（漫画サンデー）と手馴らしし、同誌に昭和四十一年一月より連載開始したのが、この大スペクタクルSFであると同時に、独特の風刺精神に満ち満ちた、手塚治虫の真の意味での「大人漫画」、『人間ども集まれ！』だったのだ。それは、あのアトムを、なんと大人SF『アトム今昔物語』として「サンケイ新聞」に連載開始したのと、まったく同じ時……。この時、手塚治虫は「劇画」を越えた……。

●夏目房之介：《自己批判というとおかしいですけど、かなりそういう運動をずっと見つけているうちに自分の漫画に非常に批判的になりましたね。それまでのテーマみたいものを全部捨てようと思ったことがあるんです。そうすると、残るのはペシミズムだけなんです。〔略〕手塚さんは暗くてどうしようもないから」というんで全部切られましたね。下手すると、あのころに私は漫画家を廃業したかもわかりません。》（一億人の手塚治虫編集委員会・編「一億人の手塚治虫」JICC出版局89年刊より）85年の週刊現代「本田靖春のインタビュ―人物論手塚治虫」漫画の神様の恨み節」に残された手塚の発言である。『人間ども集まれ！』（67〜68年）は、手塚の試行錯誤の一つとして週刊漫画サンデーに連載された。：Aと信じたものが、じつはBかもしれず、それもすぐCになるかもしれない。おまけにCはAと相似だったりするという、手塚の

好んだメタモルフオーゼ願望と隣り合わせの世界観が、覚めた距離感で反復している気がする。
：いずれにせよ、以後手塚は『人間ども集まれ!』のような大がかりな主題を劇画を消化した手法で表現してゆく道を選ぶ。そこには、60年代後半期のマンガがもっていた大人と青年という概念の相克、その背景にあっただろう日本社会の大きな岐路の圧力があつたように思える。

● 山本貴嗣：リーチ大尉&リラ

● 米沢嘉博：戦前に戯曲「ロボット」が紹介され、ちよつとしたブームとなったチェコの作家カレル・チャペックの代表作「山椒魚戦争」が日本で出版されたのは一九五三年二月のことだった。インヂネシア諸島で発見された人間に良く似た動物「山椒魚」を工業家たちが安い労働力として使い、それ自体が産業として発展していく中、進化していった彼らがやがて人間に反乱を起こす。

それは西洋の東洋の植民地化に対する風刺であり、同時に資本主義社会への皮肉であつた。奴隷を意味する「ロボット」が労働者のカリカチュアであつたことを考えれば、また山椒魚たちはアジア人のそれでもあつたのだろう。好きなSF小説にこの作品をあげることの多かつた手塚治虫は、54年に連載した「ロック冒険記」に大きな影響があつたと語っている。そうして初の本格的

大人向け長編マンガ「人間ども集まれ!」も無性人間たちの商品化から反乱に至るドラマは、「山椒魚戦争」をまんま下敷きにしているのである。：また、ベトナム戦争を思わせる戦場でのドタバタ、木座神が仕掛ける戦争ショーには、筒井康隆の「ベトナム観光公社」など、「疑似イベント物」の影響が強い。：「タニシの精子の研究」で博士号をとつた手塚らしい二又精子のアイデア、初めて「性」を扱つたのも、大人マンガだったからだろうが、そうでなくとも当時の日本SFの匂いがこの作品には濃厚だ。前述の「疑似イベント」路線は、続く「上を下へのジレット」へとつながっていくことになる。：天下太平のある時の姿はヒットラーのパロディであり、無性

人間たちがアリやハチのカリカチュアであることを考えれば、これはショートストーリーでは語りきれなかつたテーマの再生でもあるはずなのだ。松下井知夫や小島功のスタイルを取り入れ、本格的に大人マンガへ挑戦した手塚は、実は、艶笑やくすぐりに終始してきた大人漫画へのヤユも含めて、男の夢を茶化しながら、壮大なる人類喜劇を語ろうとしたのである。風刺こそマンガの力だと語る手塚にとって、それは様々な仕掛けが施されたセルフパロディでもあつたのかもされない。

● 村上知彦：「人間ども集まれ!」が漫画サンデーに連載された一九六七年から六八年は、時代の大きな節目ともいえる年だった。ベトナム戦争がますます激しさを増し、対する反戦運動や、スチューデント・パワーと呼ばれた学生の反乱が、世界的広がりとなり盛り返り始められていた。映画、演劇、美術、音楽などの分野でも、アンダーグラウンド文化、カウンターカルチャーさんさどと呼ばれる、さまざまな新しい動きが台頭してきていた。：「人間ども集まれ!」には、あの時代に起こつたさまざまな出来事が、背景として取り込まれている。物語の発端となるパイパニア戦争はベトナム戦争をイメージしたものだし、後半には大量生産された無性人間たちが、南北ベトナム双方に売られて互いに闘う場面もある。無性人間たちの抵抗と反乱は、アメリカの黒人暴動や学生運動の武装デモを連想させるし、イベント・プロデューサー木座神が企画する戦争ショーには、手塚自身が見学したモントリオール万博や、二年後に近づいた大阪万博のイメージが投影されているように思われる。小笠原返還、ハブニング、紅衛兵、金嬉老などの出来事がちりばめられ、単行本では描き直され、あるいはカットされた部分には武智鉄二、佐藤栄作、ロバートケイなども登場する。：無性人間たちを有性に変える手術によって「性」のある世界が回復する雑誌連載版の結末を、単行本版で決定的に異なつたものに手塚治虫が描き変えてしまつた理由。

その謎を解くカギは、六七年十二月、南アフリカで行われたバーナード博士による世界初の心臓移植手術にあるのではないだろうか。この大ニュースのあと、世界中が一種の狂騒に包まれ、後に続く移植手術がわれ先に行われた。：だが、手術を受けた患者の多くは、拒絶反応や合併症により、数十日から数百日で死亡した。：これら一連の過程に手塚治虫が無関心であったとは考えにくい。臓器移植という医療技術の輝かしい進歩の陰に、功名心にはやる研究者たちの姿がほの見える。そんな生命を手術で操作する恐ろしさに無感覚になってゆく人間への疑問が、単行本にまとめる際に、無性人間によって人間が去勢され「性」のない世界が永遠に続く、突き放した虚無的な結末を手塚治虫に選ばせたことは充分に考えられる。そしてそのことが、この「人間ども集まれ！」という作品を、臓器移植法やクローン技術をめぐって生命の倫理が問われ続けている現在にまで、届くものになっているのだろう。

●みなもと太郎：さすが日本SF界の草分け（マンガだけではない）たる手塚センセ、自分の作品を次々と並行時空間に送り込んでしまうため、読者は別バージョンを読まされて目を白黒してしまうのであります。僕が初めてセンセのこの悪癖（あくへき）を知ったのは、「キャプテン・ケン」で、主人公が強制自白機に押し込まれ、正体がジワジワと悪人に知られていく（自白内容が特殊文字で画面に表示された？）手に汗にぎる展開が、単行本でバツサリ切られていた時であります。：でも「人間ども集まれ！」の終盤ラストバツサリは、作者の意図が何となく理解できます。要するにSF慣れしていない当時の読者には、未来世界がワカラナクなってしまう物語はついてこれない、という判断が働いたのであります。「色々あっても、結局元の鞘に収まりました。大団円」となれば大人の読者は安心しますからね。でもそれは「夢オチ」と結局同じ水準になるので、後世に残す単行本版は、人類の敗北のまままで終わらせたのかな：と、僕は愚考します。

●中村桂子：天下太平はどうか。ブラックジャックのようにカッコよくないし、お茶の水博士のような愛嬌と知性を持っているわけではない。まさに太平、平凡を絵に描いたような人物に見えるのだが、人間どんな面を持っているかわからない。彼が天下に二人とない珍しい才能（？）の持ち主だというのだから。二本のシッポを持つ彼の精子から生まれた人間は第三の性——というより無性になるところにこの話の始まりがあり、中核があり、終わりがある。もちろん、手塚マンガのテーマの基本であるヒューマニズムを顕在化させるために戦争が、実戦、戦争ショー、クーデターなどさまざまな形で登場し、話の流れはそれでできていく。：雑誌版のように、「性こそ生の根源」として人間らしきここにありという終わり方、単行版のように性を永遠に消し去ってしまう終わり方。人間の本质を考えさせるといふ点ではどちらもありだと思ふし、それが手塚さんが、ある時はこのうちの一つをよしとし、また考えに考えて別の選択をした結果二つの終わり方ができてしまった理由だろう。確かに、男女という二つの性あつての人生なので、人間としてはよく分かる。

●野口文雄：雑誌に連載された自作のことを、手塚治虫は原作と言っていた。原作付きの映画は大抵、原作とは筋が違っているものだが、それと同じく、手塚漫画は単行本になると、連載時の原版（原作）とは大なり小なり違っているものであり、手塚は自ら原作という言葉を使うほど作品を変貌させることを愉しんでいたのだが、それは映画で言えば、正に編集の醍醐味だったのである。

●「人間ども集まれ！」の連載第一回の原稿を手にしたのは、たしか昭和四一年（一九六六）の年の暮れではなかったか。場所は大阪のホテルだった。

作品中の名詞表現

- 兵役忌避者じゃないか？〔11頁〕
- 兵役拒否者および脱走兵諸君に告ぐ！〔13頁〕
- きみむかしの「少年倶楽部」読んだことあるか？山中峯太郎の「亜細亜の曙」知ってるか？〔25頁〕
- 私 大同小異通信の記者でしてゲリラの巢を探してますんです。〔93頁〕
- 天上天下紅塵万丈龍頭蛇尾空前絶後の大異変「袁大人の部下」〔400頁〕
- 悠々たるかな天壤遼々たるかな古今。〔天下太平〕〔412頁〕〔565頁〕

- 日本人ブジョクだ、このことをうちで大森実か誰かに書かせますよ！〔103頁〕
- 週刊誌にのった私と慎太郎の対談を読まれたですか？「木座神明」〔132頁〕
- 怪獣で有名な潰屋英二氏の苦心の設計になる移動観覧台です。「木座神明」〔339頁〕
- わかった！美輪明宏だろう？どっかで見た顔だと思った。「守衛」〔389頁〕
- シヨ一の演出は…：有名な竹地哲二氏に交渉中なんだ「木座神明」〔450頁〕
- アメリカは兵器を貸すほかペンタゴンの最右翼といわれるバウムクーヘン元帥を顧問に持ってきました。「袁大人の部下」〔342頁〕

作品中の動詞表現

- あたいの亭主をよるめかそうツたつてそうはいかないよ！「リラの会話」〔116頁〕
- そう！いみじくもおっしやった。「木座神明」〔219頁〕

作品中の形容詞表現

- おらのことをなんでムセイ人間ていうだ。おら、むさくはねえ、いつもからだ洗つとる。「ミンミン」〔321頁〕

ニュース報道

○本日午前二時頃新宿区四谷三丁目のマンションで八人のモデルを惨殺するという事件が起きました。犯人は芸大在籍中の画家で周旋屋から女性型無性人間のモデルを九人も買い入れて自宅で仕事突然サク乱を起こし、いきなり銃を持ちだして乱射したもので、九人のうち八人が即死：あとひとりは行方不明であります。〔300頁〕

○新宿四谷のマンションで起こったモデル惨殺事件で——殺された八人のほか行方不明になっていたひとりのモデルは——今夜七時半頃新宿御苑裏のゴミすて場から瀕死の重傷を負って発見され十分後死亡…。〔309頁〕〔310頁〕

